第二回留学報告書

白川亮
マサチューセッツ工科大学

こんにちは、マサチューセッツ工科大学（MIT）経済学部で博士課程一年目の白川亮です。あっという間に一年目が終わりました。

1. 日本の話

東京理科大学経営学部時代の親友が結婚をしたので、これを書いたしばらく後に結婚式を挙げるかもしれないらしいです。おめでとう！二年目に所属学科を変えた初めのほう、運よく出会いました。一緒に自習室に篭ってそれぞれ勉強していて、夏休みとか冬休みとかも含めてほとんどの時間を共に過ごしてきたので大変感慨深いです。

どうやら時間の流れは思ったより早いみたいです。僕が研究者を目指して数年間ゴニョゴニョしているうちに、例えば彼はいつの間に就職して働き、貯金などして家をかったり子供の名前を考えたりしていたようでした。僕の周りには修士課程や博士課程にいかない人の方が多分多いので、学士号を取った後もひたすら授業に出席して試験を受けたり、稀に一つ論文を書いたり書かなかったりといったことをしていると、そういった周囲の人達と比べて何だかわからない焦りのようなものを感じることが時々あります。そういう時には急いで東大や MIT の同期や先輩達を思い出して、心強く感じ、感謝しています。

2. アメリカの話

今学期は必修授業（ミクロ経済学と計量経済学）を除くと、マーケットデザインと産業組織論を履修しました。マーケットデザインは今のところ僕が一番好きだし重要だと感じる分野なので履修しました。前半はマッチングやオークションの基本的な理論を一通りざっと習う感じになっていて、授業の最後には時間がある範囲でちょっとだけ新しい論文の話をさっとやる、みたいな形式でした。残りの半分は実証分析がメインで、マーケットデザインに関する実証研究を色々と習いました。

産業組織論は研究時間と天秤にかけて履修しようか悩んでいたのですが、内容はうっすらと興味があったし友達曰く「課題は四回だけで期末は単純なミニプロジェクトを一つやるだけ、簡単」らしかったので履修しました。この授業がこの一年間で受けた授業の中で一番きつかったです。確かに課題は四回だけでしたが結構な量を課してきて、しかも実証研究メインの授業だったので苦手なプログラミングを結構させられました。その友達が天才だったおかげで何でも教えてもらえて多分単位も取れたし、結構大事な気がする知識も色々と得られたので非常に有意義

ではありましたが、結構な時間をこの授業に割いてしまいました。

3. 研究の話

人生で初めて論文が引用されました。厳密には初めてではないですが、これまで引用されたときは何故かGoogle Scholarにそれらが反映されなくて、ということなのでGoogle Scholarにちゃんと引用先が記載されたのは初めてでした。経済理論は（分野によると思いますが）引用されることがあまりないらしいという噂を聞いたことがあったので、引用されてからしばらくは毎日自分のページに行って喜んだりしていましたが、それから数字も引用先も全然変わりませんし流石に飽きました。

ですので、そろそろ新しい研究テーマについて考えなければいけません。ちなみにMITでは二年目に論文を書いてみることになっていますので、進級するためにも何かしら考える必要があります。どうやら最近は研究の楽しさみたいなものをすっかり忘れてしまったように思うので、その気持ちを思い出すことが主な目標です。せっかくなので自分の好きなマーケットデザインの分野で何か貢献出来ればいいなと思っていて、最近同期と一緒に少し考えてみている研究の種があるのですが、論文に出来そうな結果が揃うかどうかはまだ分かりません。

日本にいた頃に始めたプロジェクトで完成していないものが幾つかありますが、どれもまだ進行中です。前回の報告書にあります通り、東大にいた時に書いた修士論文はある国際誌から改訂要求を受けています。それから一年間弱経ってしまいましたが、ようやく査読者たちのコメントへの返答を用意しました。締め切りには間に合いそうです。返答の書き方にはマナーみたいなものがあるかもしれず、英語ということもあり変なことを書いてしまってないか心配だったので、今後指導をお願いするかもしれない先生にチェックをしていただきました。今回に限らず今後も参考になりそうな注意点を幾つか知れた気がします。それから別にいくつか論文がありますが、それらはそれぞれ色々な国際誌に投稿してみたり改訂作業をしたりしています。残念ながら論文というものは投稿しても暫くすると高い確率でリジェクトされて、査読者たちの批判を読んで納得したり納得できなかったりします。ということですので直ぐというわけにはいかないかもしれませんが、いつか船井財団の皆様に良い報告が出来るように努めます。

■ 最後に

船井財団の皆様のサポートにより一年目を無事終えることができました。来年度も同じように頑張ります。